



第2回 ポワールの会(認知症対策連絡会) 報告書

平成29年7月19日(水)に2回目のポワールの会(認知症対策連絡会)を開催しました。まず、9月の認知症周知啓発月間(認知症川柳・メモリーウオーク等)について、後半は、前回に出た認知症施策課題の優先順位とその理由や方向性を話し合いました。

1. 9月認知症周知啓発月間について

○認知症川柳・ほのぼのエピソード(約300の応募あり)



- 1) 展示期間：9/1～17(保健福祉センター1階) 9/19～30(西白井複合センター1階)
- 2) 展示内容：認知症川柳・ほのぼのエピソード、ケアパス等認知症に関する情報、ポワールの会紹介で専門職からのひとことメッセージ(8/4(金)まで募集←期限変更)
- 3) 賞の選定：①住民参加型周知の目的があるため、展示期間に会場に箱を設置・メールの方法で投票を受付け「住民投票部門賞」を決定する。②全体の賞は、次回のポワールの会(9/6)で決定。各事業所であらかじめ選択したものを当日持ち寄り決める。
- 4) 表彰：認知症メモリーウオークのステージで周知を兼ねて実施を検討。

○認知症メモリーウオーク(10/21ふるさとまつりで実施)

- 1) 参加協力者：事前に広報で募集。認知症パートナー養成講座でも参加を募る予定。
- 2) コース概要：ふるさとまつりステージ(ステージ横受付)～総合公園にかけて会場内を周知啓発しながら練り歩く。
- 3) 周知物：オレンジ風船・ポケットティッシュ他

2. 認知症サポーターキャラバンメイト養成研修希望者募集

8/30(水)、1/10(水)9:30～16:30キャラバンメイト養成研修あり(千葉県教育会館)

※研修希望のある方は7/24(月)までにご連絡ください!!

【連絡事項のまとめ】

- キャラバンメイト研修希望者は7/24(月)までに連絡をください。
- 作品の内容を確認し、専門職からのメッセージを8/4(金)までに募集します。提出先は：各地域包括支援センター
※連絡会では8/10(木)までとじていましたが、印刷等の期限上変更をお願いします。
- 認知症メモリーウオーク当日の参加について→欠席の場合のみ9/5(火)までに連絡ください。
- 次回9/6(水)までに認知症川柳に目を通し、各事業所で選定をしてきてください。欠席の場合、事前にご連絡ください。

3. 認知症施策の課題について（優先順位とその理由）

不足していること（資源等含）	課題
① 認知症周知啓発 認知症資源等の周知	小学生からの認知症啓発の充実を図る必要性あり 介護職間での情報共有、市民への周知が不十分、
② 介護職のケア向上	介護職の知識に差がある。
③ 家族支援サービスの充実	家族の会の話し合いではなく、具体的に手助けしてくれる内容等家族を支えるサービスがない。
④ 徘徊（外出）支援サービス	GPS貸与では徘徊者を探すのに身につけていない可能性や搜索の不確実さなどの課題あり。また、要介護3以下の人でも外出する機会や必要性があり、家族負担も大きい。（要介護3以上のサービスあり）
⑤ 定期的に通える認知症予防の場（軽～中程度）	デイサービス以外で認知症状があっても安心して外出できる場がなく、閉じこもりやトラブル、家族の負担などの課題につながる。

※「一番困っているのは本人と家族」という理由で話し合いの結果、上記課題の中での優先度と方向性が以下のとおりになりました。

優先度 1

家族支援サービスの充実 ③④
(具体的に手助けになる支援をうみ出す)

H29 度後半：家族アンケート内容検討・実施
H30 年度：アンケート実施・結果から具体的な家族支援サービス内容を検討
H31 年度：サービス実施・運営等

優先度 2

当事者（軽度～中程度）支援の充実 ⑤
(定期開催ひだまりカフェの運営と発展)

H29 度後半：認知症周知啓発月間からひだまりカフェ（当事者・認知症パートナー主体で専門職がサポートという形で運営する活動の場）の話し合いを開始。

H30 年度～：ひだまりカフェ OPEN・活動定着。当事者の活動を通して、認知症周知啓発につなげる。例：小学校を回って本の読み聞かせや、カフェを開くなどイベントなどでやりがいや交流につながる。また、介護職にも幅広くサポートとして来ることが出来る場とすることで、認知症ケアの向上につながる。介護職同士の研修実施（認知症施設での実践研修など）もよい。

優先度 3 長い目で見て必要なこと

小学生からの周知啓発 & 介護職のケア向上 ①②

※ひだまりカフェを拠点に実施していく

次回は・・・

日時：**9月6日（水）14時～16時**

場所：白井市保健福祉センター3階 団体活動室

「**ポワールの会（認知症対策連絡会）**」担当

白井市 健康福祉部 高齢者福祉課 地域包括支援センター 山本・安岡

電話 047-497-3474 FAX047-498-4832 メールアドレス chiiki-hokatsu@city.shiroi.chiba.jp





第3回 ポワールの会(認知症対策連絡会)

報告書

平成29年9月6日(水)に3回目のポワールの会(認知症対策連絡会)を開催しました。認知症川柳作品ポワール賞の選考や10月に控えたメモリーウォークの分担も無事に決まり、ご協力どうもありがとうございました。後半は、前回に引き続き、認知症対策のうち「家族支援」と「当事者支援」について、具体的な意見交換を行いました。

1. 認知症川柳ポワール賞選考結果

ばあばはね 認知症でも ばあば(家族)だよ【池の上小学校】
 忘れても 僕は忘れない 安心して【七次台小学校6年生】
 一人かな どこからきたの おばあちゃん【池の上小学校】
 手を引いた 孫に今は 手を引かれ【真田小僧60代】
 物忘れ 日常生活は ミステリー【風の又三郎70代】
 それあるよ 目立つところに 置いとくね【ことにゃん7歳】
 母の世話 育ててもらった 恩返し【しゃぼん玉娘40代】
 白井市で 一緒に老けよう 元気よく【伊藤好穂60代】
 オセロして 私白よね 途中から【ももすもも60代】
 召し上がれ ごはん片手に 飯まだか【白井Firefighters】
 あったかい そのまなざしは 変わらない【ののっち11歳】



※9月の周知啓発月間中の投票による「住民部門」の結果を踏まえて、10/4(水) 13:00~保健福祉センター会議室1で最終決定を行います。※12月号の表紙下段に掲載が決まっています。また、今後の周知啓発への利用方法についても今後相談させていただきます。

2. 10月21日メモリーウォーク(ふるさとまつり)について

昨年に引き続き、ふるさとまつり会場を練り歩きます。周知物は、オレンジ風船(500個)と、長十郎を描いたイラストと、認知症情報を掲載した絆創膏にすることにしました。風船は、やはりヘリウムガスが高額なため、当日電動空気入れを使用して膨らませたいと思います。スケジュール・コース等は、別添資料を参照ください。詳細についてメモリーウォーク事前打ち合わせを、川柳選考に併せ10/4(水) 13:00~行いますので、可能な範囲でご参加よろしくお願ひ致します。

次回のポワールの会日時：11月22日(水) 14時~16時

場所：白井市保健福祉センター3階 団体活動室2

内容：「認知症家族支援」「当事者支援」について、さらに具体的に話を進めていきます。

「ポワールの会(認知症対策連絡会)」担当

白井市 健康福祉部 高齢者福祉課 地域包括支援センター 安岡・山本

電話 047-497-3474 FAX047-498-4832

メールアドレス chiiki-hokatsu@city.shiroyi.chiba.jp





3. 「家族支援」「当事者支援」について

「家族支援」とは、家族会の話し合いだけではなく、具体的に手助けしてくれる家族支援サービスの充実（徘徊も含め）が必要という認知症施策の課題を受け、今回は、意見聴取方法など今後の方向性について話し合いました。

① アンケート実施における留意点

- ・認知症の人が家（地域）で暮らし続けるために何があたりいいのかの把握のために行う。
- ・ケアパスへの反映の観点（どの段階で、何を求めているか）から、認知症日常生活自立度を担当ケアマネの判断で記載してもらう。
- ・多忙な業務、介護の中での実施となるため、アンケートのとりやすい様式等を考える。

② アンケートの内容についての意見

- ・介護者の生活の中での生きがい
- ・こんなことがあったらいい
- ・困っていること
- ・本人と一緒に活動できること
- ・支えてくれる誰かがいるか
- ・認知症の知識があるか 等

→ケアマネや事業所として関わる中での気づきを吸い上げてみるのも一つ。

→以前実施したアンケート結果にて明らかになっている望むサービスなどについて改めて必要性を確認、追加の意見があれば記載してもらう。

～参加者からがケースに関わる中での気づき～

☆愚痴を聞いてもらえる場所が必要（同じ立場で話せる）

☆出向くだけでなく、自宅に来てくれるサービスが良い

☆本人、家族と一緒に参加・活動できるものがあったらよい

☆介護者が家を空けられるサービス

「当事者支援」とは、介護保険サービス利用前の認知症症状のある方が集え、主体的に活躍できる場（定期的開催、予防・周知・相談につながる場）の必要性を受け、来年度定期開催に向けたひだまりカフェづくりの話し合いの場を10/5～開催していきます。今回は、実現に向けて考えられる課題や方向性について意見交換を行いました。

① 足の問題・開催場所

- ・将来的に色々な地区で開催できると良い。対象となる方でも、交通手段がないケースが多いと思う。
- ・理想は、参加者同士がサポートできる体制（一緒に誘って連れ添って来る）
- ・スーパーや身近に行きやすい場所での開催も行きやすいかもしれない。

→今回、さつきの里1階を拠点に考えているが、**発展系として地域開催も検討**していけると良い。

② 対象者・開催頻度

→交通手段の問題から、**最初は、身体は元気であるが認知症症状のある方（家族の困り感の相談として多い、家族の支援や自分で公共交通機関：市バス・聖仁会バスを利用して来られる方）、自己努力の中で介護予防の意識のある方（勧められて参加もある）が対象**になると思われる。月2回以上の開催ができると、参加者も利用しやすく主催者の負担も抑えられるのでは。

③ ボランティア

→認知症パートナー、**小中高大学生、介護相談員**なども巻き込んで。ボランティア側にとっても勉強にもなり利点があると思う。

④ 内容

→**いろんな目玉メニュー**があって、興味関心のある所から参加できるとよいのでは。**子供との関わり**を取り入れると、元気（やりがい）につながる。

⑤ 責任問題（保険）

→ボランティア保険に加入する。

⑥ 場につなげる手間がかかる

参加対象と考えられる人は、**地域交流が元々少ない方や体調や認知症状で自信がなくて行けない方が**想定され、場につなげるのに支援が必要なが予測される。→**民生委員やケアマネなどのキーパーソンに誘ってもらい、つないでもらう周知も必要**になるかもしれない。